

施策名：県民文化の創造

事業名	担当課・局・室名	ページ
別府アルゲリッチ音楽祭開催事業（地域芸術文化振興事業）	芸術文化スポーツ局 芸術文化スポーツ振興課	2 / 13
大分アジア彫刻展（地域芸術文化振興事業）	芸術文化スポーツ局 芸術文化スポーツ振興課	3 / 13
香りの文化振興事業（地域芸術文化振興事業）	芸術文化スポーツ局 芸術文化スポーツ振興課	4 / 13
国東半島アートプロジェクト2013開催事業 （地域芸術文化振興事業）	芸術文化スポーツ局 芸術文化スポーツ振興課	5 / 13
県立総合文化センター及び県立美術館管理運営事業	芸術文化スポーツ局 芸術文化スポーツ振興課	6 / 13
大分県民芸術文化祭開催事業(芸術文化創造発信事業)	芸術文化スポーツ局 芸術文化スポーツ振興課	7 / 13
芸術文化基金事業(芸術文化創造発信事業)	芸術文化スポーツ局 芸術文化スポーツ振興課	8 / 13
緊急雇用文化の担い手育成事業(芸術文化創造発信事業)	芸術文化スポーツ局 芸術文化スポーツ振興課	9 / 13
高山辰雄賞ジュニア美術展開催事業(芸術文化創造発信事業)	芸術文化スポーツ局 芸術文化スポーツ振興課	10 / 13
県立美術館建設事業	芸術文化スポーツ局 県立美術館推進室	11 / 13
まちなかアートギャラリー推進事業	文化課	12 / 13
県庁舎等特設ギャラリー設置事業	文化課	13 / 13

事業名	別府アルゲリッチ音楽祭開催事業 (地域芸術文化振興事業)	事業期間	平成 10 年度～平成 年度	上位の施策名	県民文化の創造
				担当課・局・室名	芸術文化スポーツ局 芸術文化スポーツ振興課

[目的、現状・課題]

目的	対象	県民・県外者・県出身音楽家	現状・課題	世界的な高水準の音楽享受できる機会が少なく、機会がある場合も一部のクラシック音楽ファンに限られている。
	意図	県民が優れた芸術を享受できる機会を提供する		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト					
				23年度	24年度	25年度	26(予算)		
アルゲリッチ&マイスキーデュオ 祝祭コンサート 県出身若手演奏家コンサート ピノキオコンサート	アルゲリッチと世界的なチェリストによるデュオコンサート 第15回を記念した世界一流の演奏家による室内楽コンサート 県出身の若手演奏家によるコンサート 子どものための無料コンサート 委託先：別府アルゲリッチ音楽祭実行委員会	全部委託	県	総コスト	38,000	38,000	31,592	38,000	
				事業費	30,000	30,000	23,592	30,000	
				うち一般財源	30,000	30,000			
				うち繰越額					
				人件費	8,000	8,000	8,000	8,000	
				職員数(人)	0.80	0.80	0.80	0.80	

※「うち一般財源」と「うち繰越額」は重複する場合がある。

[事業の成果等]

事業の成果	巨匠マルタ・アルゲリッチを中心とする国際音楽祭を、別府市、大分市の主会場で開催することにより、県民に優れた芸術を享受する機会を提供するとともに、国内外に向けて最高レベルの芸術イベント開催地として情報を発信することができた。						活動指標	指標名(単位)		事業の実績		最終目標	
	対象コンサート数(回)		24年度		25年度			目標値	目標年度				
		4		4									
成果指標	指標名(単位)	達成度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終達成(年度)	評価	備考				
	総入場者数(人)	目標値	5,000	5,000	5,000	5,000		達成					
		実績値	6,351	4,798	6,139								
		達成率	127.0%	96.0%	122.8%								

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	大分県文化振興条例	アルゲリッチ芸術振興財団が音楽祭の運営を主体的に行っているが、当音楽祭は、本県を代表する文化創造事業であり、県民に優れた芸術を享受する機会を提供するとともに、大分県の芸術文化を国内外に情報発信していくため、県のサポートが必要である。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	25年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	一部図っている(拡大可能)	・公演ごとに実施するアンケートの結果を事業遂行に反映 ・サポート委員会の活用、ボランティア研修実施等によりボランティアとの協働を推進	23年度	25年度	総コスト / 成果指標の実績値
			6 千円/人	5 千円/人	

[総合評価]

方向性	見直し(26年度)事業内容の拡充	方向性の判断理由	県民の支持を広げ、ボランティアを充実することにより、別府アルゲリッチ音楽祭の自立を図る必要があるため
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> 音楽祭の運営主体であるアルゲリッチ芸術振興財団の体制強化を支援するとともに、幅広い県民の理解を得るため、音楽祭を核とした教育や観光振興への積極的な活用 ボランティアとの協働を一層推進させ、音楽を通じた地域振興に取り組むとともに事務の効率化を推進 来場者及び収入の増加に向けて、県内外への広報活動の充実 		

事業名	大分アジア彫刻展 (地域芸術文化振興事業)	事業期間	平成 4 年度～平成 年度	上位の施策名	県民文化の創造
				担当課・局・室名	芸術文化スポーツ局 芸術文化スポーツ振興課

[目的、現状・課題]

目的	対象	県民	現状・課題	日本やアジアにおける現代の多彩な芸術・文化に触れる機会が少なく、鑑賞や製作など、県民の活動が停滞している。
	意図	国内外の優れた芸術・文化に触れる機会を有する		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト	23年度	24年度	25年度	26(予算)
第11回大分アジア彫刻展作品募集 “現代のかたち” vol.9 アジア美術親子鑑賞体験事業 大分アジア彫刻展受賞作家たちのその後Ⅱ～長田堅二郎展～ “現代のかたち” vol.10	出品作品募集（国内144点、国外118点） 県立美術館まちなか支局と共同実施（記念館所蔵作品4点、アジア彫刻展入賞作品3点） 親子で福岡アジア美術館のギャラリー鑑賞をするバスツアー 過去受賞者の新作展覧会を実施（426名） 過去の作品を紹介展示（20点、384名）	負担金	大分アジア彫刻展 実行委員会	総コスト	9,000	12,055	8,900	11,900
				事業費	4,000	7,055	3,900	6,900
				うち一般財源				
				うち繰越額				
				人件費	5,000	5,000	5,000	5,000
				職員数（人）	0.50	0.50	0.50	0.50

※「うち一般財源」と「うち繰越額」は重複する場合がある。

[事業の成果等]

事業の成果	アジア美術親子鑑賞体験事業により、日頃鑑賞機会の少ないアジア美術にふれてもらうことで、アジア美術をより身近に感じてもらうことができた。また、まちなか支局やiichikoアトリウムプラザでの紹介展“現代（いま）のかたち”の開催により、県民に優れた芸術作品の鑑賞の機会を提供した。	活動指標	指標名（単位）		事業の実績		最終目標		
					23年度	25年度	目標値	目標年度	
			紹介展実施会場数（会場）		15	2			
			ワークショップ実施回数		2				
成果指標	指標名（単位）	達成度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終達成（年度）	評価	備考
	作品応募数（作品）	目標値	459		271			概ね達成	
		実績値	246		262				
		達成率	53.6%		96.7%				

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	大分県文化振興条例	大分県出身の朝倉文夫を顕彰する大分アジア彫刻展を優れた芸術文化作品を鑑賞する契機として県民による文化創造の意欲を刺激し、また彫刻芸術を通じたアジア諸国との国際交流を推進するためには地元豊後大野市と連携（共催）して県が実施する必要がある。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	25年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し（業務の民間委託など）を図っているか	一部図っている（拡大可能）	・過去に受賞した作家へ委託し、新作を紹介する展覧会を開催	23年度	25年度	総コスト / 成果指標の実績値
			37 千円/人	34 千円/人	

[総合評価]

方向性	見直し（26年度）効率化の推進	方向性の判断理由	大分アジア彫刻展のPRを効果的かつ効率的に行い、次回の応募者数を増加させるため
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> ・次回応募者数を増やすため、アジア地域の芸術系大学や美術館と協力 ・県内外からの来場者増加を図るため、県の広報媒体を活用した積極的なPRの実施 ・バスツアーを企画して、第12回大分アジア彫刻展をより多くの方に周知 		

事業名	香りの文化振興事業 (地域芸術文化振興事業)	事業期間	平成 19 年度～平成 年度	上位の施策名	県民文化の創造
				担当課・局・室名	芸術文化スポーツ局 芸術文化スポーツ振興課

[目的、現状・課題]

目的	対象	県民	現状・課題	国内有数のコレクションである県有財産が有効活用されておらず、古来から生活を豊かにしてきた香りの文化を身近に感じる機会が少ない。
	意図	香りの文化に親しむ機会を提供する		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト	23年度	24年度	25年度	26(予算)
香水づくりプチ体験事業	香水づくりの出張講座をおこない、県民に香水づくりの楽しさを体験してもらう事業（県内1カ所、県外1カ所にて各2回ずつ開催、176名参加） 委託先：学校法人別府大学	全部委託	県	総コスト	4,659	5,180	4,060	4,060
				事業費	2,659	3,180	2,060	2,060
著名人による情報発信事業	早見優トークイベントの実施（入場者78名） 委託先：株式会社TMエンタテイメント 平成26年3月15日、大分香りの博物館			うち一般財源	759	780	60	60
				うち繰越額				
				人件費	2,000	2,000	2,000	2,000
				職員数(人)	0.20	0.20	0.20	0.20

※「うち一般財源」と「うち繰越額」は重複する場合がある。

[事業の成果等]

事業の成果	活動指標	指標名(単位)		事業の実績		最終目標	
		24年度	25年度	目標値	目標年度		
香水づくりプチ体験や著名人によるトークショーの実施など積極的な情報発信を行ったことにより、博物館の周知と来館のきっかけにつながった。	香水作りプチ体験イベント実施回数(回)	6	4				

成果指標	指標名(単位)	達成度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終達成(年度)	評価	備考
	入館者数(人)	目標値		23,000	28,000	29,000	29,000		概ね達成
実績値			27,643	28,981	28,209				
達成率			120.2%	103.5%	97.3%				

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	大分県文化振興条例	県の財産である旧香りの森博物館の収蔵品を貸付けて実施している事業であり、県有財産をうまく活用し、スムーズな博物館運営ができるように県が実施する必要がある。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	25年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
			23年度	25年度	
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている(拡大困難)	・大分香りの博物館と連携し、事業を実施	169 円/人	144 円/人	総コスト / 成果指標の実績値

[総合評価]

方向性	現状維持	方向性の判断理由	県有財産を有効活用し、香りの文化に親しむ機会の場を提供していく必要があるため
改善計画等	・県の広報媒体を積極的に活用し、入館者増加を推進		

事業名	国東半島アートプロジェクト2013開催事業（地域芸術文化振興事業）	事業期間	平成 24 年度～平成 26 年度	上位の施策名	県民文化の創造
				担当課・局・室名	芸術文化スポーツ局 芸術文化スポーツ振興課

[目的、現状・課題]

目的	対象	県民	現状・課題	芸術文化は県民の活力ある地域社会の形成に寄与する重要な役割を果たすことが期待されているが、質の高い海外・国内のすぐれた芸術化に触れる機会が少ない。
	意図	国内外の優れた文化に触れる		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト	23年度	24年度	25年度	26(予算)
国東半島アートプロジェクト2013 (国東半島芸術祭プレ事業)	開催期間：平成26年3月1日～3月23日 会場：豊後高田市並石地区、国東市国見町千燈地区 入場者数：18,884名 世界的に活躍するアーティストによる作品を設置 並石地区（豊後高田市一畑）：勅使川原 三郎氏 千燈地区（国東市国見町千燈）：アントニー・ゴームリー氏 委託先：国東半島芸術祭実行委員会	全部委託	県	総コスト		50,000	97,214	140,000
				事業費		40,000	77,214	120,000
				うち一般財源		20,000	20,000	40,000
				うち繰越額				
				人件費		10,000	20,000	20,000
				職員数(人)		1.00	2.00	2.00

※「うち一般財源」と「うち繰越額」は重複する場合がある。

[事業の成果等]

事業の成果	国際的に活躍するアーティストによる作品展示や地域の新たな魅力を引き出すアートイベントの実施により、多種多様な文化芸術の鑑賞・体験の機会を創出し、芸術文化に対する機運を醸成することに繋がった。	活動指標	指標名(単位)		事業の実績		最終目標	
			24年度	25年度	目標値	目標年度		
			国東半島アートプロジェクトの開催回数(回)	1	1			

成果指標	指標名(単位)	達成度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終達成(26年度)	評価	備考	
	鑑賞者数(人)	目標値			10,000	10,000	30,000	30,000	達成	
		実績値			9,954	18,884				
		達成率			99.5%	188.8%				

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	NPOとの協働が可能	大分県文化振興条例	実行委員会事務局は県が主体となって運営しているが、国東半島アートプロジェクトは、県外からの来場者及び全ての県民が芸術文化の鑑賞機会を等しく得るための事業であり、芸術文化振興策として非常に有効な事業であるため、NPOや民間団体と協働しつつ引き続き県が支援していく必要がある。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	25年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
			23年度	25年度	
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている(拡大困難)	<ul style="list-style-type: none"> 県・豊後高田市・国東市等行政関係者で構成する実行委員会での実施 事業の一部をNPOと協働実施 各種助成制度や基金の積極的な活用 		3 千円/人	総コスト / 成果指標の実績値

[総合評価]

方向性	見直し(26年度)事業内容の拡充	方向性の判断理由	より多くの県民が広く芸術文化について理解と関心を深めるため
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> 関係市町村及びNPO法人BEPPEU PROJECTとのより一層の連携 地域住民の理解と支援や協力を得るため、きめ細やかな説明会の開催や住民参加型プログラム(応援プロジェクト、ボランティア募集)の実施 事業周知及び来場者増を図るため、県の広報媒体やパブリシティの活用、美術関係の広報専門家の活用などによる積極的なPR活動の展開 27年春の県立美術館開館及び本事業終了後の事業継承などを見据えた事業内容の検討 		

事業名	大分県立総合文化センター及び大分県立美術館管理運営事業	事業期間	平成 25 年度～平成 29 年度	上位の施策名	県民文化の創造
				担当課・局・室名	芸術文化スポーツ局 芸術文化スポーツ振興課

[目的、現状・課題]

目的	対象	県民	現状・課題	県民が広く芸術文化スポーツについての理解と関心を深めるためには、その活動に接する多くの機会が必要である
	意図	芸術文化スポーツの振興を図る		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト				
				23年度	24年度	25年度	26(予算)	
県立総合文化センター及び県立美術館の管理運営の指定管理	センター、美術館の施設及び設備の利用促進 音楽・美術等芸術文化の鑑賞機会の提供 委託先：(公財)大分県芸術文化スポーツ振興財団	全部委託	県	総コスト			91,452	352,334
				事業費			86,452	347,334
				うち一般財源			26,452	143,334
				うち繰越額				
				人件費			5,000	5,000
				職員数(人)			0.50	0.50

※「うち一般財源」と「うち繰越額」は重複する場合がある。

[事業の成果等]

事業の成果	文化の創造と享受の場を提供することにより、県民の多様な文化活動を促進が図られた。	活動指標	指標名(単位)		事業の実績		最終目標	
			24年度	25年度	目標値	目標年度		
			ホール利用件数(件)	473	444	460	29	

成果指標	指標名(単位)	達成度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終達成(29年度)	評価	備考	
	年間ホール利用率(%)	目標値				83.5	83.5	83.5	達成	
		実績値				85.7				
		達成率				102.6%				

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	大分県公の施設の指定管理者の指定の 手続等に関する条例	県民の芸術文化の振興を図ることは県の役割である。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	25年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
			23年度	25年度	
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている(拡大困難)	・公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団に委託	/	1,067 円/%	総コスト / 成果指標の実績値

[総合評価]

方向性	見直し(26年度)事業内容の拡充	方向性の判断理由	県立美術館開館に向け継続の事業が必要なため
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> 小中学生への鑑賞機会の拡大など、サービス改善 新たに設立された「大分県芸術文化友の会 びび」等を活用した更なるPRの促進 		

事業名	大分県民芸術文化祭開催事業 (芸術文化創造発信事業)	事業期間	平成 11 年度～平成 年度	上位の施策名	県民文化の創造
				担当課・局・室名	芸術文化スポーツ局 芸術文化スポーツ振興課

[目的、現状・課題]

目的	対象	県民、文化団体	現状・課題	県民が広く文化についての理解と関心を深めるためには、文化活動に接する多くの機会が必要であるが、財政基盤が脆弱な文化団体単独では大分県民芸術文化祭のような大規模の文化イベントは実施できない。
	意図	芸術文化活動の発表の場と鑑賞の機会を図る		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト				
				23年度	24年度	25年度	26(予算)	
芸術文化フェスティバル 地域文化フェスティバル 参加行事	<ul style="list-style-type: none"> ・開幕行事、閉幕行事、県美展を開催(3行事) ・研修事業、ジャンル別文化行事、若者文化行事を開催(23行事) ・地域文化行事を開催(9行事) ・文化団体による関連催事を後援(188行事) 全体総参加者数345,172人(うち主催行事参加者数136,140人)	間接補助	大分県民芸術文化祭 実行委員会	総コスト	28,000	24,266	27,812	37,812
				事業費	20,000	16,266	19,783	29,812
				うち一般財源	9,850	6,266	9,783	9,812
				うち繰越額				
				人件費	8,000	8,000	8,000	8,000
職員数(人)	0.80	0.80	0.80	0.80				

※「うち一般財源」と「うち繰越額」は重複する場合がある。

[事業の成果等]

事業の成果	県内各地で開催された行事は200を超え、全体総参加者数は約35万人、主催行事参加者は約13万人を数えた。芸術・伝統・生活など多様なジャンルの文化行事を開催し、県民に文化の発表・鑑賞機会を提供することにより、地域文化の活性化を図ることができた。	活動指標	指標名(単位)		事業の実績		最終目標		
			補助対象のみの開催行事数(回)	33	35	目標値	目標年度		
成果指標	指標名(単位)	達成度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終達成(年度)	評価	備考
	全体の開催行事数(回)	目標値	180	180	180	180		達成	
		実績値	205	227	223				
		達成率	113.9%	126.1%	123.9%				

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	NPOとの協働が可能	大分県文化振興条例	実行委員会事務局は17年度から移管した民間団体が運営主体となっているが、県民芸術文化祭は個々の文化団体の発表機会であるとともに、全ての県民が文化活動の発表と鑑賞の機会を等しく得るための事業であり、県民の芸術文化振興策として非常に有効な事業であるため、民間団体と協働しつつ引き続き県が支援していく必要がある。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	25年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている(拡大困難)	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会事務局を民間団体(大分県芸術文化振興会議)に移管 ・各種助成制度や基金の積極的な活用 	23年度	25年度	総コスト / 成果指標の実績値
			137 千円/回	125 千円/回	

[総合評価]

方向性	現状維持	方向性の判断理由	県民が広く文化について理解と関心を深めるためには事業の継続が必要のため
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> ・各種助成制度や大分県芸術文化基金を活用することにより、事業規模を維持する予定 		

事業名	芸術文化基金事業 (芸術文化創造発信事業)	事業期間	昭和 60 年度～平成	年度	上位の施策名	県民文化の創造
					担当課・局・室名	芸術文化スポーツ局 芸術文化スポーツ振興課

[目的、現状・課題]

目的	対象	県民、文化団体	現状・課題	文化団体は、財政基盤が脆弱で公的支援や協賛が得られなければ十分な活動が行えていない。そのため、文化団体と県が共同で積み立てた大分県芸術文化基金を活用して、NPO法人大分県芸術文化振興会議を通じて文化芸術活動を支援している。
	意図	文化芸術活動の振興を図る		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト	23年度	24年度	25年度	26(予算)
補助事業 芸術鑑賞事業（文化キャラバン） 文化芸術活動調査研究・情報発信事業	文化活動実施団体への補助（42事業） 県内小中学校等での公演・展示事業（46会場） 大分県文化年鑑の発行やホームページによる情報発信	間接補助	大分県芸術文化振興会議	総コスト	12,621	12,621	16,352	15,559
				事業費	7,621	7,621	11,352	10,559
				うち一般財源				
				うち繰越額				
				人件費	5,000	5,000	5,000	5,000
				職員数（人）	0.50	0.50	0.50	0.50

※「うち一般財源」と「うち繰越額」は重複する場合がある。

[事業の成果等]

事業の成果	NPO法人大分県芸術文化振興会議への補助を通して、県内の芸術文化団体による自主的な活動を支援し、芸術文化団体の幅広い連携を促進し、芸術文化の振興に寄与することができた。 ・団体会員 162団体、個人会員 150名（平成25年度末現在）						活動指標	指標名（単位）		事業の実績		最終目標	
								文化キャラバン実施数（回）		24年度	25年度	目標値	目標年度
								補助事業数（件）		38	46	30	
								43	42	50			

成果指標	指標名（単位）	達成度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終達成（年度）	評価	備考
	文化キャラバン鑑賞者数（人）	目標値	7,000	7,000	7,000	7,000		達成	
		実績値	8,469	9,025	9,476				
		達成率	121.0%	128.9%	135.4%				

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	NPOとの協働が可能	大分県文化振興条例	文化団体と県が共同で積み立てた大分県芸術文化基金を活用して、NPO法人大分県芸術文化振興会議を通じて文化芸術活動を支援していることから、今後も県の関与が必要である。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	25年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標	左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し（業務の民間委託など）を図っているか	図っている（拡大困難）	・事業を民間団体（NPO法人大分県芸術文化振興会議）に移管	23年度	25年度
			1	2
			千円/人	千円/人
			総コスト / 成果指標の実績値	

[総合評価]

方向性	見直し（26年度）事業内容の拡充	方向性の判断理由	文化団体の活動を継続するためには引き続き支援が必要のため
改善計画等	・幅広い文化芸術活動支援の観点から、補助事業件数について昨年より1割程度の増を目指し、補助事業対象団体の検討		

事業名	緊急雇用文化の担い手育成事業 (芸術文化創造発信事業)	事業期間	平成 16 年度～平成 年度	上位の施策名	県民文化の創造
				担当課・局・室名	芸術文化スポーツ局 芸術文化スポーツ振興課

[目的、現状・課題]

目的	対象	中学生、高校生	現状・課題	中学生、高校生が質の高い舞台公演及び美術展覧会に触れるきっかけが少なく、芸術文化に対する興味を引き出せていない。
	意図	芸術文化への興味を引き出す		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト	23年度	24年度	25年度	26(予算)
青少年舞台芸術鑑賞事業	学校を通じて、県内で行われる質の高い舞台公演及び美術展覧会の鑑賞希望者を募り、招待者を決定後、学校あてにチケットを送付 委託先：公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団	全部委託	県	総コスト	4,000	3,904	6,900	7,004
				事業費	3,000	2,904	5,900	6,004
				うち一般財源	3,000	2,904		
				うち繰越額				
				人件費	1,000	1,000	1,000	1,000
職員数(人)	0.10	0.10	0.10	0.10				

※「うち一般財源」と「うち繰越額」は重複する場合がある。

[事業の成果等]

事業の成果	公演後のアンケート調査では、「胸が高鳴り涙があふれるほどのすばらしい演奏が聴けたのは私の人生における大切な宝物です」「歌舞伎の楽しさや面白さがわかった」「落語を生で見てこんなに面白いんだなと思いました」といった感想が寄せられ、子どもたちにとって、文化芸術に触れるきっかけとして充分機能している。						活動指標	指標名(単位)		事業の実績		最終目標	
	鑑賞した公演数(回)		24年度	25年度	目標値	目標年度							
		38		39									
成果指標	指標名(単位)	達成度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終達成(年度)	評価	備考				
	鑑賞者数(人)	目標値	660	856	932	932		達成不十分	設定した公演のうち希望の少ないものについて、足を運んでもらえるよう学校に打診するなどしたが、PR不足等により目標達成に至らなかった。				
		実績値	930	982	760								
		達成率	140.9%	114.7%	81.5%								

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	大分県文化振興条例	次代の文化の担い手となる子どもたちに対して文化的環境を整備することは県の役割であり、引き続き県が実施することが必要である。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	25年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている(拡大困難)	・平成20年度から事務を民間団体に委託	23年度	25年度	総コスト / 成果指標の実績値
			4 千円/人	9 千円/人	

[総合評価]

方向性	見直し(26年度)事業内容の拡充	方向性の判断理由	中・高校生が鑑賞のきっかけを作るためには事業の継続が必要のため
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> 県内全域の子どもたちが文化芸術に触れる契機となるよう、学校への周知を促進 平成25年度から事務を委託先を公益財団法人芸術文化スポーツ振興財団に変更して、学校側のニーズに対応できる体制を整備 		

事業名	高山辰雄賞ジュニア美術展開催事業 (芸術文化創造発信事業)	事業期間	平成 20 年度～平成	年度	上位の施策名	県民文化の創造
					担当課・局・室名	芸術文化スポーツ局 芸術文化スポーツ振興課

[目的、現状・課題]

目的	対象	児童、生徒及び県民	現状・課題	本美術展は全県下の児童及び生徒から約10万点の応募が寄せられる全国的にも類を見ない規模の美術展であり、本県の明日を担う子どもたちの豊かな感性と創造性を育み、文化振興を図る上で果たす役割は極めて大きい。
	意図	表現力を育み、絵画作品の鑑賞機会を提供する		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト	23年度	24年度	25年度	26(予算)
地域の文化活動支援事業	第31回高山辰雄賞ジュニア美術展の開催支援 開催期日：平成25年8月27日～9月1日 展示会場：大分県立芸術会館 応募数：99,898作品 入賞者数：推奨 1,000点、優賞11点 入場者数：5,221名	直接補助	高山辰雄賞ジュニア美術展実行委員会	総コスト	2,200	2,200	2,200	2,200
				事業費	1,200	1,200	1,200	1,200
				うち一般財源	1,200	1,200	1,200	1,200
				うち繰越額				
				人件費	1,000	1,000	1,000	1,000
				職員数(人)	0.10	0.10	0.10	0.10

※「うち一般財源」と「うち繰越額」は重複する場合がある。

[事業の成果等]

事業の成果	保育園、幼稚園、小・中・高等学校、特別支援学校から約10万点の作品が応募されるなど、子どもたちの表現力や感性、創作意欲を伸ばすことに貢献するとともに、多くの県民に絵画の鑑賞機会を提供した。	活動指標	指標名(単位)		事業の実績		最終目標		
			高山辰雄賞ジュニア美術展の開催回数(回)	1	1	目標値	目標年度		
成果指標	指標名(単位)	達成度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終達成(年度)	評価	備考
	応募作品数(作品)	目標値	100,000	100,000	98,000	98,000		達成	
		実績値	102,491	100,420	99,898				
		達成率	102.5%	100.4%	101.9%				

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	民間団体による実施が妥当	大分県文化振興条例	県内全域の幼稚園生から高校生までほぼ全ての子どもが参加している全国でも例のない事業であり、県の関与は必要である。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	25年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている(拡大困難)	・美術芸術団体・新聞社・大分市等行政関係者で構成する実行委員会で実施	23年度	25年度	総コスト / 成果指標の実績値
			21 円/作品	22 円/作品	

[総合評価]

方向性	現状維持	方向性の判断理由	実行委員会が補助を受けずに単独で美術展を開催できる団体へ移行する方向性をつける必要があるため
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> 23年度に補助金の上限額を1,500千円から20%減の1,200千円に見直し 平成27年春開館予定の県立美術館と連携した事業実施 		

事業名	県立美術館建設事業	事業期間	平成 23 年度～平成 26 年度	上位の施策名	県民文化の創造
				担当課・局・室名	芸術文化スポーツ局 県立美術館推進室

[目的、現状・課題]

目的	対象	県民	現状・課題	県立美術館の整備については、進捗状況を県民に対して逐次情報提供し、県民の美術に対する興味関心を喚起するとともに、美術館が芸術文化の拠点として地域活性化やまちづくりに貢献していくことが求められている。
	意図	感性や創造性、文化を核とした地域力を高めるため、県立美術館を建設する		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト	23年度	24年度	25年度	26(予算)
美術館本体工事の実施 ペDESTリアンデッキの設置 屋内外展示品の制作 美術館情報システムの整備 まちなか支局の運営 広報	本体工事、電気設備、空調設備等の工事を実施 ペDESTリアンデッキ工事の契約を締結 屋内外展示品の製作にかかる契約を締結 情報システムの開発にかかる契約を締結 広報活動拠点として「県立美術館まちなか支局」を運営 イベント、仮囲いアート、PR用ポスター等の制作	直接実施	県	総コスト	3,599,982	835,503	4,517,722	4,924,251
				事業費	3,509,982	745,503	4,427,722	4,874,251
				うち一般財源	12,220	22,817	32,569	95,267
				うち繰越額			159,772	
				人件費	90,000	90,000	90,000	50,000
				職員数(人)	9.00	9.00	9.00	5.00

※「うち一般財源」と「うち繰越額」は重複する場合がある。

[事業の成果等]

事業の成果	本体工事を着実に進めるとともに、新たに、いいちこ総合文化センターと美術館を結ぶペDESTリアンデッキ工事や、屋内外展示品の制作、美術館情報システムの開発にかかる契約を締結した。また、まちなか支局における美術館の情報提供やワークショップ等を通じて、県民の美術に対する関心を高めるとともに、開館に向けた広報を行った。						活動指標	指標名(単位)		事業の実績		最終目標	
										24年度	25年度	目標値	目標年度
								まちなか支局でのイベント回数(回)		31	30		
								実施設計の完了(件)		1	2		
						建設工事請負契約の締結(件)		5	1				
成果指標	指標名(単位)		達成度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終達成(26年度)	評価	備考			
			目標値		2,200	3,600	4,300	4,300		達成			
	まちなか支局の来館者数(人)		実績値		3,157	4,018							
			達成率		143.5%	111.6%							

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	大分県文化振興条例	県立施設を設置する事業であり、県で対応する必要がある。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	25年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている(拡大困難)	・指定管理制度を導入した。(指定管理期間：H25.10.1～H30.3.31)	24年度	25年度	総コスト / 成果指標の実績値
			265 千円/人	1,124 千円/人	

[総合評価]

方向性	現状維持	方向性の判断理由	県立美術館の開館に向け、着実に事業を進めていくため
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> ・来年春の開館に向け、ハード面の整備を計画どおり進める。 ・ソフト面については、指定管理者である(公財)大分県芸術文化スポーツ振興財団と連携し、着実に準備を進める。 		

事業名	まちなかアートギャラリー推進事業	事業期間	平成 24 年度～平成 26 年度	上位の施策名	県民文化の創造
				担当課・局・室名	教育庁 文化課

[目的、現状・課題]

目的	対象	県民	現状・課題	県民が気軽に芸術を鑑賞できる、アートを楽しむことができるようなイベントが実施されていない。
	意図	アートに対する理解が深まる		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト	23年度	24年度	25年度	26(予算)
公募型アートイベント	県民や学生による絵画を商店街に展示 (51団体) 吹奏楽や書道パフォーマンス等を実施 (21団体) 若手アーティストが企画する巨大紙相撲を実施 力士を作成するワークショップを開催 (18団体) 委託先：株式会社大分まちなか倶楽部	全部委託	県	総コスト		15,628	15,783	15,782
アーティストイベント				事業費		5,628	5,783	5,782
				うち一般財源		5,628	5,783	5,782
				うち繰越額				
人件費					10,000	10,000	10,000	
職員数(人)		1.00	1.00	1.00				

※「うち一般財源」と「うち繰越額」は重複する場合がある。

[事業の成果等]

事業の成果	公募型アートイベントやアーティストイベントを通じて、多くの県民が気軽に芸術作品を鑑賞し、また芸術文化活動を発表する機会を提供することで、アートに親しむ場を作ることができた。	活動指標	指標名(単位)		事業の実績		最終目標		
			事業への参加団体数(団体)	63	90	目標値	目標年度		
成果指標	指標名(単位)	達成度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終達成(26年度)	評価	備考
	事業への参加団体数(団体)	目標値		60	65	70	70	達成	絵画展示51団体・パフォーマンス21団体・ワークショップ18団体
		実績値		63	90				
		達成率		105.0%	138.5%				

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	なし	県立美術館の動線となる中心部商店街でアートイベントを実施することで、県民や商店主の美術館に対する心の敷居を下げるとともに、アーティストと商店街を結びつける役割も担っていることから、県が主体となって気運醸成を行う必要がある。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	25年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている(拡大困難)	・株式会社大分まちなか倶楽部への委託を実施	23年度	25年度	総コスト / 成果指標の実績値
				175 千円/団体	

[総合評価]

方向性	現状維持	方向性の判断理由	県立美術館の開館に向けて、継続的に気運醸成を図る必要があるため
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> 美術館推進室と情報共有し連携を強化 県内学校や大分県吹奏楽連盟などの関係団体への働きかけによる事業の促進 		

事業名	県庁舎等特設ギャラリー設置事業	事業期間	平成 22 年度～平成 26 年度	上位の施策名	県民文化の創造
				担当課・局・室名	教育庁 文化課

[目的、現状・課題]

目的	対象	芸術会館の収蔵作品	現状・課題	芸術会館は1,000点以上の洋画、彫刻、工芸作品を所蔵しているが、常設展示室がないため、恒常的に収蔵作品を展示・公開する機会が少ない。
	意図	積極的な活用で県民の鑑賞機会を拡大している		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト	23年度	24年度	25年度	26(予算)
「芸術会館収蔵品特設ギャラリー」設置事業	大分県庁舎本館1階ロビー、大分県立図書館2階、大分県立病院1階中央待合ホールの各専用展示ケース内に、所蔵の洋画、彫刻、工芸作品1～2点を、会期を4期に分けて展示替えをして、通年展示 「芸術会館ラストコレクション展」のPRを目的に、田能村竹田の作品9点を先哲史料館にて特別展示	直接実施	県	総コスト	1,710	1,710	1,710	1,710
				事業費	710	710	710	710
				うち一般財源	710	710		
				うち繰越額				
				人件費	1,000	1,000	1,000	1,000
職員数(人)	0.10	0.10	0.10	0.10				

※「うち一般財源」と「うち繰越額」は重複する場合がある。

[事業の成果等]

事業の成果	年間利用者数が県庁舎は不明であるが、大分県立図書館は約50万人、大分県立病院は約20万人いるため、多数の県民に身近な場所で美術品を鑑賞できる機会を提供すると同時に、収蔵品の活用機会の拡充が図られた。	活動指標	指標名(単位)		事業の実績		最終目標		
			公開作品数(点)	24	33	目標値	目標年度		
成果指標	指標名(単位)	達成度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終達成(26年度)	評価	備考
	公開作品数(点)	目標値	25	24	33	22	22	達成	目標値の増減は公開する作品の大きさによるもの。25年度は従来の3か所に加え、芸術会館での特別展のPRを目的に先哲史料館でも一時的に公開したため、増加した。
		実績値	25	24	33				
		達成率	100.0%	100.0%	100.0%				

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	なし	芸術会館に常設展示室がない状況は変わらないため、引き続き収蔵品活用及び鑑賞機会の拡大を図る必要がある。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	25年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図れない(見直し困難)	・県庁舎、大分県立図書館、大分県立病院との連携実施(H22～)	23年度	25年度	総コスト / 成果指標の実績値
			68 千円/点	52 千円/点	

[総合評価]

方向性	現状維持	方向性の判断理由	引き続き所蔵品の有効活用を図る必要があるため
改善計画等	・各開設施設の展示環境に適した公開作品を選定		